

ドライブスルー受診受付を導入

近未来的外観とウッドテイストの院内

静内科

静内科（高崎市小八木町、静毅人院長）が10月25日に開院する。近未来的な外観と木材を多用した温かみのある院内、ドライブスルー受診受付などが特徴。

同院は敷地面積約1500平方メートル、木造2階建ての建物の延べ床面積は約270平方メートル。クリニックとは思えない近未来的な外観の一方、院内は木材を多用した温かい雰囲気。すべて「冷たさや怖いイメージのない空間にしたい」という静院長の意思が反映されたものだ。



誰もが立ち止まるクリニックとは思えない外観

10月25日オープン

同院に入って最初に目に入るのが天井にまで達

する木製の本棚。外と中の空間の仕切りを作り、風除室の機能も持たせている。水槽のある一角はキッズスペースとなっている。

また、県内でも珍しい本格的なドライブスルー受診受付を導入。患者は車を降りずに専用窓口で順番予約を取得。順番が近づく携帯電話に連絡が入る仕組みだ。隣接する薬局でも同様の仕組み

で薬を受け取ることが可能。

また、院長が心臓血管内科の専門であることから、冠動脈CTを準備し、心臓カテーテル検査よりも負担の少ない画像診断を行う。救急まで行う多くの病院で採用されているCTで、脳梗塞、がんなどの内臓疾患、骨折に至るまで撮影できる。

スタッフは院長以下、保健師1人、看護師2人、事務2人、臨床検査技師1人、放射線技師1人の

8人体制。

同院近くに生まれ地元で開院し、地域医療に貢献したかった

という静院長は「本人と家族に寄り添った治療をしたい。そのため分かりやすい説明をして、治療内容を理解してもらう必要がある。病気は怖いものではな

く、立ち向かえるものだと知ってもらいたい」と話している。（山田誠一）



入口の天井まで達する木製本棚